

要望事項	要望内容	回答
輸送力増強		
1 輸送計画の改善		
(1) 桜木町駅や磯子駅折返しとなっている列車の大船駅までの延長運転	利用者の利便性の向上を図るため、桜木町駅や磯子駅折返しとなっている列車を、大船駅まで延長運転されるよう要望いたします。	桜木町駅、磯子駅で現在、折返しをしている列車の大船駅までの延長運転は、今後のお客さまのご利用状況を見極めつつ検討してまいります。
利便性向上		
1 駅施設等の整備		
(1) 関内駅の利用者の安全性確保、利便性向上を図るための駅施設等の整備	JR関内駅は、市庁舎や横浜スタジアムの最寄駅であるとともに、横浜都心部の玄関口の1つとして、一日の乗降客数が約11万8千人(平成26年度実績)と多くの方々が利用されています。しかし、駅舎と道路の間に段差があるうえ、南口に車いす対応型のエスカレーターがあるものの、エレベーターが設置されていません。 現在、北口の駅施設改良について、JR関内駅北口整備協議会を設立し、貴社と連携しながら事業を進めていますが、着実な事業推進に向け、引き続きの取組みをお願いします。 平成32年6月には、市庁舎が関内駅前から移転しますが、横浜文化体育館の再整備や現市庁舎街区の活用など、新たなまちづくりの検討を進めていますので、ご協力をお願いします。	関内駅北口のバリアフリー施設等の整備につきましては、JR関内駅北口整備協議会が立ち上がり、平成26年に着手し、平成29年の春ごろの予定を目指しておりますので、引き続き関係自治体のご協力をお願いいたします。 また、市庁舎移転後の新たなまちづくりについては関係自治体と連携し検討を進めてまいりたいと考えております。
(2) 石川町駅元町口の高齢者、障害者等の安全確保を図るための駅施設等の整備	駅舎改良については平成27年度から事業化されましたが、平成29年度内の供用開始に向け、引き続き着実な事業推進の取組みをお願いします。 また、この駅舎改良を契機にデザイン性の高い駅舎にするなど、観光で訪れた方々や地域の皆様にも将来に渡って愛される駅となるよう、鉄道事業者としてのご協力をお願いします。	バリアフリー設備の整備は、平成28年度の着工を目指し関係自治体との協議や調整に取り組んでおります。 また、駅の改良は多くのお客さまにご利用いただける駅を目指し自治体と連携し検討してまいります。
(3) 新杉田駅の混雑対策	新杉田駅は、一日あたりの乗降客数が約7万5千人(平成26年度実績)と、利用者が多い駅です。 駅構内及び高架下に設置されているシーサイドライン・京急杉田駅方面との連絡通路は朝夕ラッシュ時には乗降客であふれ、著しく混雑している状況が見受けられます。 については、利用者の安全性の確保の点からも、適切な混雑対策を講じるよう要望いたします。	駅構内及び連絡通路の混雑解消につきましては、お客さまの流動を把握すると共に、関係者や自治体等と連携し改善の必要性について検討してまいります。